

「淡路国分間絵図」一覧

		資料名	年代	西暦
津名郡	1	岩屋浦分間絵図	天保5年	1834
津名郡	2	志築中田村分間絵図	天保2年	1831
津名郡	3	池之内村分間絵図	天保2年	1831
津名郡	4	王子村分間絵図	天保2年	1831
津名郡	5	楠本町分間絵図		
津名郡	6	上山村分間絵図控	天保6年	1835
津名郡	7	上山村分間絵図控 二枚之内二	天保6年	1835
津名郡	8	上山村分間絵図控 二枚之内二 (控)	天保6年	1835
津名郡	9	室津村室津浦分間絵図	天保7年	1836
津名郡	10	黒谷村分間絵図 (控)	天保7年	1836
津名郡	11	大坪村分間絵図	天保7年	1836
津名郡	12	机南村分間絵図 (控)	天保7年	1836
津名郡	13	江崎村分間絵図 (控)	天保5年	1834
津名郡	14	大川村平林村分間絵図 (控)	天保5年	1834
津名郡	15	長畠村分間絵図	天保5年	1834
津名郡	16	机畑村分間絵図	天保7年	1836
津名郡	17	机畑村分間絵図 (控)	天保7年	1836
津名郡	18	斗ノ内村斗ノ内浦分間絵図	天保7年	1836
津名郡	19	斗ノ内村斗ノ内浦分間絵図 (控)	天保7年	1836
津名郡	20	田野尻村分間絵図	天保7年	1836
津名郡	21	轟村分間絵図	天保5年	1834
津名郡	22	育波村育波浦分間絵図	天保7年	1836
津名郡	23	江井浦桃川村分間絵図		
津名郡	24	柳沢村分間絵図		
津名郡	25	多賀村分間絵図		
津名郡	26	郡家中村分間絵図		
津名郡	27	井手村分間絵図		
津名郡	28	竹谷村分間絵図		
津名郡	29	上河合・下河合村分間絵図		
津名郡	30	須本御城下・津田村・小路谷村分間絵図 (写)	文政11年	1828
津名郡	31	須本御城下・津田村分間絵図 (正)	文政11年	1828
津名郡	32	塩屋村・宇山村・炬口浦分間絵図 (写)	文政11年	1828
津名郡	33	塩屋村・宇山村・炬口浦分間絵図 (控)	文政11年	1828
津名郡	34	内田村分間絵図 (写)	文政11年	1828
津名郡	35	由良浦分間絵図 (写)	文政11年	1828
津名郡	36	上物部村分間絵図 (正)	文政11年	1828
津名郡	37	上物部村分間絵図 (控)	文政11年	1828
津名郡	38	下物部村分間絵図 (正)	文政11年	1828
津名郡	39	下物部村分間絵図 (控)	文政11年	1828
津名郡	40	千草村分間絵図 其ノ一 (正)	文政11年	1828
津名郡	41	千草村分間絵図 其ノ一 (控)	文政11年	1828
津名郡	42	千草村分間絵図 其ノ二 (正)	文政11年	1828

		資料名	年代	西暦
津名郡	43	千草村分間絵図 其ノ一 (控)	文政11年	1828
津名郡	44	畑田村分間絵図 (正)	文政11年	1828
三原郡	45	宇原村分間絵図	文政12年	1829
三原郡	46	大野村分間絵図	文政12年	1829
三原郡	47	木戸村木戸新村池田村分間絵図	文政12年	1829
三原郡	48	金屋村分間絵図	文政11年	1828
三原郡	49	前林村池田村分間絵図	文政12年	1829
三原郡	50	下加茂村上加茂村分間絵図	文政12年	1829
三原郡	51	上内膳村下内膳村分間絵図	文政12年	1829
三原郡	52	桑間村分間絵図	文政12年	1829
三原郡	53	奥畑村分間絵図	文政12年	1829
三原郡	54	鮎屋村分間絵図二枚之内一 (北) 控	文政12年	1829
三原郡	55	山本村城方村分間絵図	天保9年	1838
三原郡	56	市村・善光寺村・小井村分間絵図 (正)	天保2年	1831
三原郡	57	青木村・円行寺村分間絵図 (正)	天保2年	1831
三原郡	58	新村・難波村分間絵図 (正)	天保2年	1831
三原郡	59	大榎並村分間絵図 (正)	天保6年	1835
三原郡	60	大榎並村分間絵図 (控)	天保6年	1835
三原郡	61	小榎並村・西川村分間絵図 (正)	天保6年	1835
三原郡	62	小榎並村・西川村分間絵図 (控)	天保6年	1835
三原郡	63	上八太村分間絵図 (正)	天保6年	1835
三原郡	64	下八太村分間絵図 (正)	天保6年	1835
三原郡	65	掃守村分間絵図 (正)	天保6年	1835
三原郡	66	掃守村分間絵図 (控)	天保6年	1835
三原郡	67	松田村分間絵図 (正)	天保6年	1835
三原郡	68	松田村分間絵図 (控)	天保7年	1836
三原郡	69	馬廻村分間絵図 其ノ一 (正)	天保2年	1831
三原郡	70	馬廻村分間絵図 其ノ一 (控)	天保2年	1831
三原郡	71	馬廻村分間絵図 其ノ二 (正)	天保2年	1831
三原郡	72	大久保村分間絵図 (正)	天保2年	1831
三原郡	73	入田村分間絵図 (正)	天保5年	1834
三原郡	74	中八木村分間絵図 (正)	天保5年	1834
三原郡	75	上八木村分間絵図 (正)	文政12年	1829
三原郡	76	鳥井村分間絵図 (正)	天保2年	1831
三原郡	77	立石村・国分村分間絵図 (正)	天保2年	1831
三原郡	78	立石村・国分村分間絵図 (控)		
三原郡	79	新庄村・野原村・徳野村分間絵図	天保6年	1835
三原郡	80	国衙村分間絵図 (正)	天保2年	1831
三原郡	81	国衙村分間絵図 (控)	天保2年	1831
三原郡	82	社家村分間絵図 (正)	天保2年	1831
三原郡	83	社家村分間絵図 (控)	天保2年	1831
三原郡	84	浦壁村分間絵図 其ノ一 (正)	天保2年	1831
三原郡	85	浦壁村分間絵図 其ノ二 (正)	天保2年	1831

		資料名	年代	西暦
三原郡	86	浦壁村分間絵図 其ノ一 (控)	天保2年	1831
三原郡	87	浦壁村分間絵図 其ノ二 (控)	天保2年	1831
三原郡	88	喜来村・富田村・黒道村分間絵図 (正)	天保2年	1831
三原郡	89	喜来村・富田村・黒道村分間絵図 (控)	天保2年	1831
三原郡	90	地頭方村分間絵図 (正)	天保2年	1831
三原郡	91	地頭方村分間絵図 (控)	天保2年	1831
三原郡	92	十一ヶ所村徳久村分間絵図 (控)	天保2年	1831
三原郡	93	古津路村分間絵図		
三原郡	94	慶野村分間絵図		
三原郡	95	櫛田村宝明寺村分間絵図		
三原郡	96	湊里湊浦分間絵図		
三原郡	97	津井村分間絵図		
三原郡	98	伊加利村分間絵図		
三原郡	99	新村分間絵図		
三原郡	100	中島村分間絵図		
三原郡	101	福良浦分間絵図		
三原郡	102	沼島分間絵図		

典拠：淡路市、洲本市、南あわじ市提供データ

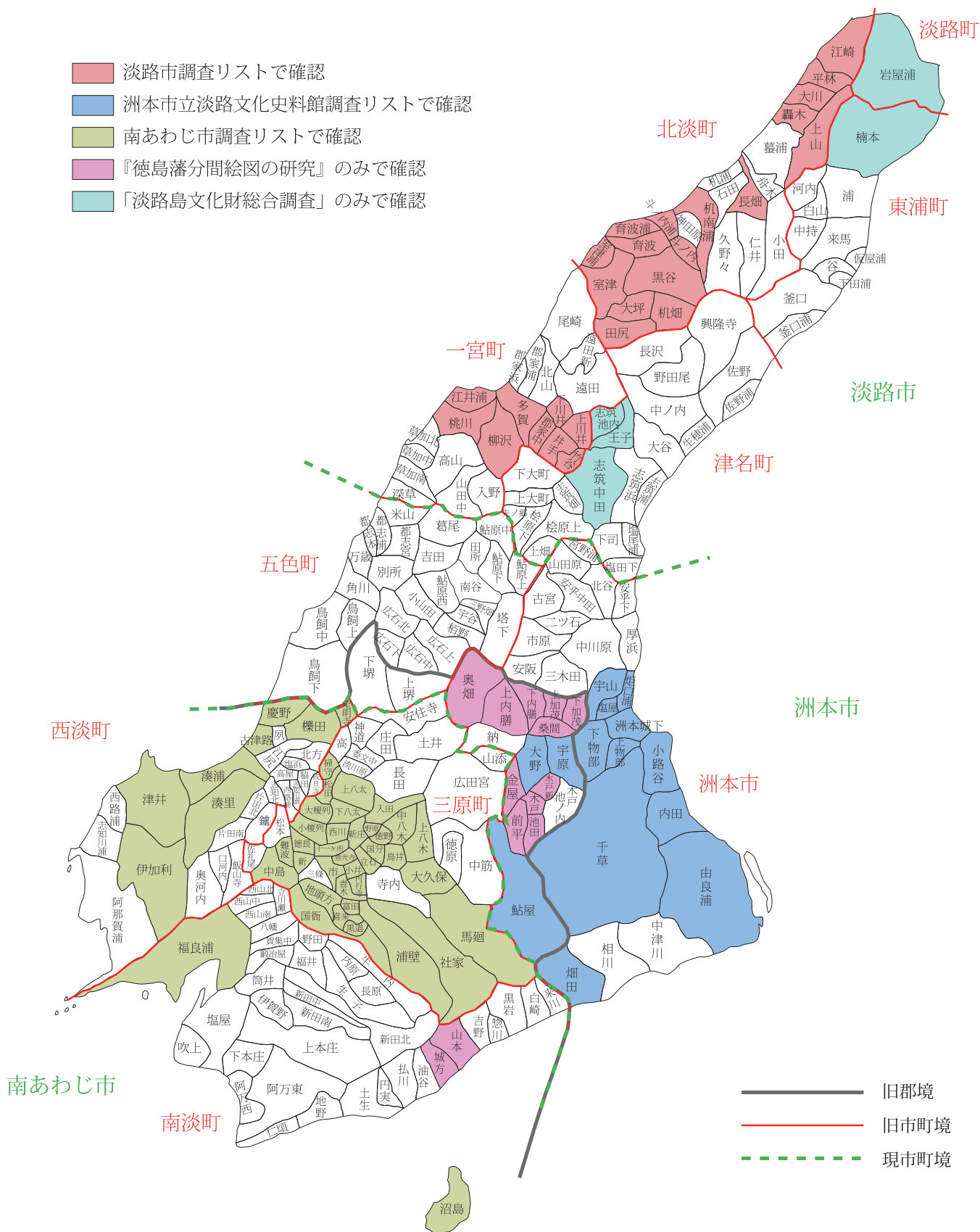
『徳島藩分間絵図の研究』（2019年）

『淡路島文化財総合調査報告書』（2021年）

史料の名称については典拠データの記載に従うものとし、（正）（控）（写）などの分類もそのまま引用している

# 「淡路国分間絵図」マップ

- 淡路市調査リストで確認
- 洲本市立淡路文化史料館調査リストで確認
- 南あわじ市調査リストで確認
- 『徳島藩分間絵図の研究』のみで確認
- 「淡路島文化財総合調査」のみで確認



旧郡境  
 旧市町境  
 現市町境

『兵庫県市町村合併史』（1962年 兵庫県総務部地方課編）付図より作成

## 史料解題 淡路の分間絵図

1988年から2000年にかけて兵庫県立歴史博物館が実施した淡路島文化財総合調査において、「淡路国分間絵図」の存在が確認された。しかしながら、2021年刊行の『淡路島文化財総合調査報告書』（「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト実行委員会編）に掲載されたその数は、わずか40数点にすぎない。

今回あらためて残存状況を確認すべく、淡路市、洲本市、南あわじ市にご協力いただいた。前掲の一覧は3市から提供いただいたデータに基づくものである。加えて2019年に刊行された『徳島藩分間絵図の研究』に記載されているものを追記した。

また、史料の名称については典拠データの記載に従うものとし、(正)(控)(写)などの分類もそのまま引用している。

### 1. 分間絵図とは<sup>①</sup>

徳島藩領であった淡路の分間絵図は、天保3(1832)年2月4日に徳島藩から命じられ、藩絵図方により作成が開始された。現在確認できる分間村絵図は文政11(1828)年から天保9年(1838)のものである。それを編集する形で嘉永2(1849)年に郡図が、さらに郡図を編集して同年に国図が作成される。

なお、淡路の分間村絵図は「絵図面二寸一丁」すなわち縮尺1,800分の1、分間郡図は「絵図面二分一丁」すなわち縮尺18,000分の1となっている。そのため、各村の大きさに応じてその絵図のサイズも異なり、大きいものでは縦横それぞれ2メートルを超えるものもある。島内最大の村である千草村分間絵図が「其ノ一」「其ノ二」に分かれているのは、おそらく1枚に収まりきらなかったことによるものと考えられる。

### 2. 残存状況

現在確認できる淡路の分間絵図は前掲表および前掲マップの通りである。

分間絵図はそれぞれ2部ずつ作成され、1部は蜂須賀家、1部は各郡代役所に置かれた。明治維新後は徳島県庁及び税務署に移されたが、県庁に保管されていた絵図類は昭和20年7月4日の空襲で全て焼失した<sup>②</sup>。近代以降も郡役所などに引き継がれ管理、活用されていたものがあつたと考えられるが、戦後の市町村合併等で散逸したものと考えられ、現在確認できる分間絵図は、その来歴に不明な点が多い。

### 3. 主な記載事項

阿波・淡路両国の分間絵図すべてに共通する記載事項として、絵図の四方に押された「花型方位盤」の印と凡例がある(写真)。

また一例として津名郡由良浦の分間絵図をみると、地図の周囲に縦横の罫線が引かれている。絵図に記された凡例によると

- |       |    |
|-------|----|
| 一 六尺  | 一間 |
| 一 六十間 | 一丁 |

- 一 三十六町 一里
- 一 絵図面二寸 一丁

とあるので、この罫線は両辺が2寸（約6cm）四方になるように引かれ、この1辺が1丁（108m）となるものと考えられる。この罫線はすべての絵図に記載されているものではなく、罫線の有無にどのような意図があるのかは今のところ不明である。

確認できるいくつかの分間絵図によると、村の景観は、田畑の色分けや池、川、道のほか、松並木や砂浜、沿岸部の石垣や岩などが詳細に書き込まれている。寺社やランドマーク的な建造物は名称も併せて記される。隣接する村がある場合には、その方角に村名を記してある。

平野部の田は該当部分を広く塗りつぶしてあるが、山間の田畑は1枚1枚の形状が描かれており、傾斜地の景観がよく表れている。また住居の表現は大きさ、向き、屋根や柱の形状など、1軒1軒異なる描かれ方をしており、実際の景観をかなり忠実に反映しているものと思われる。

#### 4. 今後の活用と課題

およそ200年前の景観を一望できるこれらの分間絵図は、現代の私たちの生活の中でも身近に活用できる貴重な資料となりうる。分間絵図は文字史料よりも視覚的にわかりやすいだけでなく、その高い精度からも活用が期待される資料の一つとなるだろう。本書藪田論文にはすでにいくつかの研究テーマの可能性が提示されており、今後さらに様々な研究が進められることとなるだろう。

しかしながら、今回一覧に掲載された分間絵図の中には、今現在所在が明らかでないものもあり、残存状況を確認するためにはさらなる詳細な調査が必要と思われる。またその記載内容についても、差別問題を含むセンシティブなものもあり活用には配慮が求められる。

（福永明子）



「花型方位盤」と凡例（三原郡分間絵図、洲本市立淡路文化史料館蔵）

- (1) 『徳島藩分間絵図の研究』第1章
- (2) 『徳島藩分間絵図の研究』P14

#### 参考文献

羽山久男 『徳島藩分間絵図の研究』 2019年 古今書院